

2021 度 B S C にて実習を終えた医学部学生より感想をいただきました。

緩和ケア内科での1ヶ月間の実習、ありがとうございました。私を受け入れてご指導くださった有賀先生、高木先生、星野先生、看護師さん、公認心理師さん、医療ソーシャルワーカー（MSW）さん、そして患者さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

毎朝のカンファはとても勉強になりました。医学はもちろん、看護学、心理学、社会生活といった多角的視点から患者さんの抱える問題について話し合うことは、全人的に患者さんを見る上で大切なプロセスだと感じました。

高木先生、星野先生との病棟回診、有賀先生の外来、在宅診療を通して学んだ臨床推論は、私にとっては難しいものでしたが、患者さんの訴えに基づいて、検査データや画像を診ながら、苦痛の原因を探ること、現状について考えることは、大変良い学習になりました。また、看護師さんたちの患者さんとの接し方、関係の作り方も勉強になりました。公認心理師の滑川先生の患者さんとの話合いに同席させてもらったこと、MSWの宮本先生について退院カンファに参加させてもらったこと、退院患者さん家族との面談に同席させてもらったこと、どれも得難い経験でした。

総じてこの1ヶ月は、病院にいる患者さんとしての「人」と、「人」の人生の中の病の持つ意味とのギャップについて考えさせられました。苦痛とは、医療的に取り除ける身体的苦痛に加えて、社会的な苦痛、精神的な苦痛、スピリチュアルな苦痛があるわけですが、それらの苦痛は個々に存在するのではなく不可分であると感じました。全人的苦痛というものはもはや医療だけで負い切れるものなのだろうか、とも思いましたが「私たちは、この世で大きいことはできません。小さなことを大きな愛をもって行うだけです」とマザーテレサの言葉を思い出しつつ、私は私にできることを行いたいと思います。そのために、自分にできることを増やし、深められるよう、この緩和ケア内科で学んだことを胸に精進して参ります。本当にありがとうございました。

帝京大学医学部6年
大野真理子